

小島哲也●

ドライマウス（口腔乾燥症）については、近年テレビ・新聞などのメディアで取り上げられることも多くなっており、ますます国民の関心が高まってきた。

本書は著者である阪井丘芳氏の豊富な臨床経験をもとに、ドライマウスがもたらす障害に対して歯科がどのように対応できるかを紹介し、診断・治療法をシンプルにまとめている入門書・臨床マニュアルである。また、イラストや写真も多用されて読みやすい内容であり、待合室用の図書・患者説明用のツールとしても利用することができる。

阪井氏は、大阪大学歯学部附属病院で開設した「ドライマウス外来」で多くの患者さんの治療に関わってきた臨床家であるとともに、唾液腺の再生医療に関する研究成果を『Nature』および『Science』で報告している世界的な研究者でもあり、ドライマウスに関する第一人者である。

本書の構成は、まずドライマウスの症状と原因の解説、次に辛い症状を和らげるための具体的な診察・診断・診療の手順の紹介、最後に年齢・病気・介護状況などの対象者別の対応方法となっている。

ドライマウスの三大原因は、薬の副作用・ストレス・筋力低下と老化であり、日本では高齢化と社会環境の複雑化により、現在800万人（潜在的には3000万人）といわれているドライマウスの患者さんは今後も確実に増えていくことが予測される。ドライマウスは、咀嚼障害、口腔の不快感、舌痛、味覚異常、義歯の吸着不良、齲蝕や歯周病の悪化等、口腔機能にさまざまな障害をもたらす。さらに唾液の減少が免疫機能にも影響し、全身の健康の悪化を引き起こすこともあるという。しかしながらドライマウスに関心をもつ耳鼻咽喉科や内科の医師はほとんどいない状況であり、治療の担い手としては唾液・口腔機能の専門家である歯科の出番であろう。

具体的な診療の手順としては、問診・検査による正確な原因調査の後、状況に応じて①原因除去（薬の変更等）、②対症療法（保湿剤の使用等）、③生活



ドライマウス  
今日から改善・お口のかわき  
阪井丘芳 著  
A4判変型 40頁 定価2,940円（本体2,800円＋税5%）  
医歯薬出版株式会社刊

指導（唾液腺・口腔粘膜マッサージ等）を適切に組み合わせた治療方針を立案することが紹介されている。

本書では唾液腺・口腔粘膜マッサージとして、比較的安心で軽い刺激で反応する3種類のシンプルな方法が写真付きで解説されている。3種類すべてを行っても約5分のメニューであり、解剖学的知識のない患者さんが読んでも理解しやすく、かつ継続しやすい内容になっており、とても効果的なマッサージ方法であるといえる。対象者別の対処方法については、高齢者、若年者、要介護者、シェーグレン症候群などについて実際の治療経過から学んだことや患者さんの体験談も掲載されており、実際の臨床のイメージをつかみやすい内容になっている。

高齢化社会の到来でドライマウス・摂食機能障害など、これまでとは異なった疾患に苦しむ方々が増えている。歯科医師過剰時代といわれて久しいが、少し視野を広げてみれば国民の健康長寿をサポートする歯科医師はまだ不足しているのではなかろうか。

（こじまつや 〒533-0022 大阪市東淀川区菅原7-1-19 医療法人乾洋会トミデンタルクリニック  
Tel：06-6990-5621）